

丹波縄文の森塾 活動報告



令和6年11月24日（日） 曇

土器あげ前



土器あげ



焼き上がった土器



講評



きょうの活動は、きのう野焼した土器を取り出すこと。上にかぶせていたトタン板を横によけ、灰の中から焼きあがった土器を取り出しました。きのうは小雨まじりの天候だったので、焼き上がりがかうまくできているか心配していましたが、どれもきれいな焼き色になっていました。ところどころ取り付けた部分が取れてしまったものもありましたが、それも手作り感が感じられてよかったです。

創作工房にもどって、一人ひとり感想を発表しました。工夫したところや使う用途、出来ばえなどをお互いに交流しました。

「うまく焼けるか心配していたけれど思った以上によかった」「粘土で作るときに外に広がってきたので中へ押し込んで星型にした」「イメージ通りできた」「いい色になった」「今度はもっと工夫したい」などの感想がありました。いろいろな土器を見ながら自分の土器のいいところや工夫したいところが発見できたようです。

縄文土器の歴史は1万5千年前までさかのぼるそうで、世界最古の土器と言われています。野焼することで粘土が溶けて硬く固まるという化学変化を利用した縄文土器。工業製品にはない味わいのあるオリジナルの土器が出来上がりました。この体験の思い出を土器と共にいつまでも大切にしてほしいと思います。

講師として滋賀県から指導に来ていただいたNPO法人ちゃいれじの鈴木康二さん、陶芸家の宮本ルリ子さん、そしてサポーターのみなさん2日間にわたり、たいへんお世話になりました。ありがとうございました。

